

認知症疾患医療センター併設医療機関における作業療法実態調査

この調査は、令和3年3月29日に認知症疾患医療センター運営事業の実施要綱が改正されたことを受け、認知症疾患医療センターを有する医療機関の作業療法士を対象に、認知症疾患医療センターにおける作業療法士の配置状況、取組実態についての現状と課題を把握し、支援策を検討することを目的としています。調査から得られた結果については、厚生労働省や日本老年精神医学会等の関係機関に報告を予定しています。

回答について

- ・特に記載がない項目に関しては、回答時点の状況でお答えください。
- ・回答内容がデータではお手元に残りませんので、pdf版の調査票を記録用としてご利用ください。
- ・Web版の構築都合上、pdf版と画面構成などが一部異なる箇所がありますがご了承ください。
- ・調査期間中は回答の修正が可能です。修正の際は再度、同じPCの同じブラウザでアクセスしてください。(Cookieが有効の場合に限ります)

調査項目

- I. 実施要綱改正の認知度について
- II. 認知症疾患医療センターにおける作業療法士の関与状況について
 1. 認知症疾患医療センターの類型
 2. 認知症疾患医療センターにおける配置職員
 3. 認知症疾患医療センターにおける「専門医療機能」として診療報酬への作業療法士の関与状況
 4. 認知症疾患医療センターにおける業務にかかる作業療法士の関与状況
 5. 作業療法士の認知症疾患医療センターへの関与の具体的内容
 6. 「在宅訪問支援機能」の実態把握
- III. 作業療法士の研修会への参加状況
- IV. 作業療法士が実施している「地域への取り組み」
- V. 認知症疾患医療センター業務への作業療法士の関与体制についての意見
- VI. 認知症疾患医療センターにおける認知症のリハビリテーションについての意見・要望
- VII. 取組事例の提供可否

以下の設問に回答をお願いいたします。

回答者について

施設名			
回答者（作業療法士）氏名		経験年数	
メールアドレス			

I. 実施要綱の改正について

令和3年3月29日に認知症疾患医療センター運営事業の実施要綱が改正され、全てのセンターの機能として「診断後支援等機能」が位置付けられ、①診断後の認知症の人や家族に対する相談支援、②当事者によるピア活動や交流会の開催、のいずれか又は両方を実施することが明記されたことを知っていますか。

- 知っている
 知らない

一口メモ

診断後支援等機能とは、認知症の人や家族が、診断後であっても、今後の生活や認知症に対する不安の軽減が図られるとともに円滑な日常生活を過ごせるよう、かかりつけ医等の医療機関の他、介護支援専門員等地域の介護に関する関係機関、地域包括支援センター等との連携の推進を図るため、診断後等の認知症の人や家族に対する相談支援、当事者等によるピア活動や交流会を行う。

* 認知症疾患医療センター運営実施要綱改正については以下の URL 285 ページ以降をご参照ください。

<https://www.mhlw.go.jp/content/12300000/000750940.pdf>

II. 認知症疾患医療センターにおける作業療法士の関与状況について

1. 貴施設の病床数、作業療法士数について教えてください。

(1) 病床数(施設全体の病床数、うち精神科病床数)

施設全体：_____床、うち精神科病床：_____床

(2) 作業療法士数（施設全体）

常勤：_____名、非常勤：_____名

2. 貴施設の認知症疾患医療センターについて

(1) 類型について、あてはまるものを選択してください。

- 基幹型
 地域型
 診療所型

(2) (1) で生活機能項目の評価を実施している方は、活用しているバッテリー全てを選択し、評価を行うタイミング、頻度についてご記載ください。

① 活用している評価バッテリー

<全般的評価尺度>

- 国際生活機能分類(International Classification of Functioning, Disability and Health ; ICF)
- 地域包括ケアシステムにおける認知症アセスメントシート (Dementia Assessment Sheet for Community-based Intergrated Care System ;DASC-21)

<心身機能>

- Mini Mental State Examination (MMSE)
- 改訂 長谷川式簡易知能評価スケール (HDS-R)
- Dementia Behavior Disturbance Scale (DBD)
- Vitality Index (VI)
- Frontal Assessment Battery (FAB)
- 老年期うつ病評価尺度 (GDS)
- Neuro psychiatric Inventory (NPI)
- N 式老年者用精神状態尺度 (NM スケール)

<活動と参加>

- 認知症高齢者の日常生活自立度
- 障害高齢者の日常生活自立度 (寝たきり度)
- Functional Assessment Staging (FAST)
- Clinical Dementia Rating (CDR)
- N 式老年者用日常生活動作能力評価尺度 (N-ADL)
- バーセル指数 (Barthel Index; BI)
- 機能的自立度評価表 (Functional Independence Measure; FIM)
- Physical Self-Maintenance Scale (PSMS)
- Disability Assessment for Dementia (DAD または短縮版 DBD-13 を含む)
- Frenchay Activities Index (FAI)
- Instrumental Activities of Daily Living Scale (Lawton-IADL)
- 老研式活動能力指標

<環境因子>

- Zarit 介護負担尺度 (J-ZBI または 短縮版 J-ZBI_8 を含む)

<Quality of Life>

- Quality of Life-Alzheimer' s Disease (QoL-AD)
- Dementia Quality of Life Instrument (D-QoL)
- Quality of Life for Dementia (QoL-D)
- Quality of Life in Late-Stage Dementia (QUALID)

<その他>

- ()

② 評価を行うタイミング、頻度について、以下にご記載ください。

4. 認知症疾患医療センターにおける業務にかかる作業療法士の関与状況

(1) 作業療法士は、認知症疾患医療センターにどのような形態で配置されていますか。

- 診断後等支援のための相談員として専従で配置されている
- 診断後等支援のための相談員として兼務で配置されている
- 独自で専従として配置されている
- 独自で兼務で配置されている
- 配置はされていないが、業務によって関与している
- 作業療法士の配置・関与はない →Ⅲ以降をご回答ください

※(1)で配置もしくは業務によって関与していると回答した方は以下の設問にお答えください。

(2) 作業療法士は、認知症疾患医療センター等においてどのような業務に関与していますか。該当する項目をすべて選択してください。

- 初診前の医療相談業務
- 診断後の認知症の人、家族、関係機関等に対する相談支援業務
- ピアサポート活動の実施
- 認知症疾患医療センターが主催する研修への参加・協力
- 地域の医療従事者にむけた研修の開催
- 地域の地域包括支援センター職員等への研修の開催
- 認知症患者の家族や地域住民等を対象とする研修会の開催
- 他の主体の実施する認知症医療に関する研修への協力
- 初期集中支援チームや地域包括支援センターとの専門医療相談における連絡調整
- 依頼に応じて関与している

依頼内容：

- その他（)

5. 作業療法士の認知症疾患医療センターへの具体的関与内容

認知症疾患医療センターにおいて、またはセンターが併設する施設において、作業療法士が取り組んでいるものについてお答えください。

(1) 診断後等支援機能

1) 【相談支援】を実施している方は、下記の設問にご回答ください。 **実施なしの場合は2)へ**

① よく相談を受ける手法について、該当する項目をすべて選択してください。

- 電話
- 来院による対面
- オンライン
- その他（)

VII. 取り組み事例の提供について

本調査の結果とあわせ、認知症疾患医療センターにおける作業療法士の役割・取り組み例について日本老年精神医学会等の関係機関へ紹介することを予定しています。貴施設における役割・取り組み例を提供していただくことは可能ですか。

- 提供できる
- 提供できない

ご協力ありがとうございました。